

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	中城興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ(西ユニット)		
所在地	岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	平成25年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&ji_gyosyoCd=0393000088-00&PrefCd=03&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成25年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がスタートして、講師などにより介護教養など研修を行った。基本的な考え方として、グループホームつくえの運営理念、中城興産株式会社の社訓を各職員がマスターしました介護などについて全職員が落ちこぼれなくレベルアップに努力するよう指導している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閉校された地元小学校を改装し1階利用で、東・西2ユニットのグループホームを開設した矢先に震災を経験することとなった。被災した認知症高齢者を次々に受け入れ、人為的にも設備的にも不十分な態勢でありながらも、管理者・職員の献身的なケアと、村や地域の協力を頂き、今日に至っている。多くの面で不十分な点もあるが、管理者・職員の前向きな姿勢や関わりの良さから、両ユニットとも利用者の居心地の良さが表情に表れている。学校を利用しているせいか、子供の頃の素朴な懐かしさを思いを起す。地理的には恵まれているとは言えないが、人為的にも、物理的にも苦難を乗り越え、現在まで立ち上げてきた努力が、更なる今後の運営に活かされていくことと思われる。地域の唯一の介護事業所であるだけに行政の力強い支援をバックに、社長・管理者・職員が地域の方々と連携・協力していくことに期待したい。また七夕飾りの短冊に、利用者と職員も一緒に願いを記入し、日々のケアの参考にしている。手紙を書いたり、写真を送ったりして、関係継続の支援をしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『日々笑顔、日々楽しく、あなたらしさを支えるケア』を理念とし職員が利用者に対して安心と満足を提供している。	ほぼ震災と同時に立ち上げ、様々な困難を乗り越え、会社の運営理念を基に管理者と職員全員で、昨年考えたホーム独自の理念を掲げ、日々の業務に勤しんでいる。 職員事務所には掲示しているが、玄関にも掲示し理念を関係者への周知も図る予定としている。	身近で意思統一をしやすい理念である。更なる共有のためにも、朝のミーティング等で互いに意識付け(唱和、声掛け等)をし合い、理念に立ち戻ることの気持ちで、日々のケア業務に当たることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのお祭りに参加したり施設での行事で交流している。	元地元小学校の校舎であるので、卒業生等が時折、訪れ、交流をしたり、同業の他事業所からの見学を受け入れたりもしている。8月には地域の方々とのふれあい交流会も実施している。婦人会の協力を得て周辺の草取りなども行っており、今後も、推進委員などへの声掛けなどで活発な地域交流を図っていきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践経験が浅く地域への貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催にて施設での状況などを写真を交えて報告し意見をいただいている。	地域の民生委員・行政・家族代表などが参加し、近況やホームからの写真を交えての説明・報告などを行い、意見交換をしている。短時間での話し合いの為、効率的・有効的に会の運営がなされるようテーマの準備等が必要だと考えている。特に災害に対する万全な備えを得るために、消防・駐在所等への会議出席の声掛けの取り組みも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回の地域ケア会議に出席役場担当者や地域包括支援センターと連絡を取り合っている。	月1回の地域ケア会議には必ず出席して積極的に連携を図っており、問題解決の大きな力になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全事故防止の為玄関に施錠している工夫を重ね玄関にも施錠しないケアを目指したい。	利用者の状況から、夜間は、玄関に施錠されているが職員は施錠しないケアを目指し、勉強会をもち方策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内に虐待はない。全職員が高齢者虐待防止関係法や施設内での研修の機会を持ちたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は1名の方が成年後見人制度を利用していたが利用者の都合により現在は利用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、契約内容を重要事項説明書で家族にわかりやすく丁寧に説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置しているが意見が寄せられたことは無い。運営推進会議や面会時に意見を聞くようにしている。	七夕飾りの短冊に、身近な願い(刺身が食べたい、散歩に行きたい)等を書いていただき、それをケアに役立てている。家族が面会に来て、「ホームに利用者が落ち着いていると安心だから、ずっと利用させてほしい」等、要望・希望も述べられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が本年3月に全職員と面接を行っている。その際職員の意見を聞き業務に反映している。	社長が年に一度全職員と面談するほか、希望者にはその都度面談をし、意見・要望を聞いている。介護関係の資格取得のための研修費用等に関して対応した。今後は、非常時の際の発電機購入についても要望を出している。要望・意見等は、毎月の職員会議で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望する勤務条件に出来る限り応えている。昇給、資格手当、夜勤手当、賞与の支給に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修への参加を促している内部研修も随時行っていくように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会に加入し、色々な情報をえてサービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者や家族からの不安や要望を聞き、それを職員で共有しサービスを導入している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談を行い、しっかり傾聴し受け止めている。入所後も家族との関係は大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から必要としている支援を出来るだけ柔軟に対応し居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとも話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除洗濯物たたみ、食事の片付け食器拭きなど利用者の生活の一部と考え職員と協力して行えるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方家族には近況報告や写真を送ったりしている。必要時には電話で相談したり来所の時に伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には利用者居室に案内しゆっくりと話が出来るように配慮をしている。自宅への外出、外泊が出来るよう家族に協力してもらっている。	昔から利用している美容院に行き続けている利用者への対応や、盆・彼岸の墓参りに家族の協力のもと出かけたり、知人が面会に来られた際には、気楽にゆっくり居室で利用者とくつろいでいただくように配慮・支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の生活やその時の状態の把握に努め利用者への声掛けもかかさないでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた施設への利用者申込みの支援を行っている。必要があれば相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。本人の意思を大切にしながら気持ちを考え支援している。	特に担当職員が、日常の会話の中(特に入浴時など)で、思いや意向を聞き取り、日々のケアに役立てている。殆どの利用者は、思い等を会話の中で表せるので、言葉としての「意向」は把握しやすいが、七夕飾りの短冊に気持ちを書いて頂くなど、思いや意向を記録される方もいることから、これらの情報もケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録で心身状態の変化の把握に努めている。毎日の声掛けは絶やさない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3～6ヶ月後に介護計画を見直しモニタリングを行っている希望、意向を確認し介護計画に反映するよう努めている。	本人や家族との日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。そしてケース記録を基に、主として担当職員とケアマネジャーが話し合い、プランを作成している。見直しは半年スパンで行っているが、状況を判断し、変更が必要な場合は臨機応変に対応している。家族にはその都度報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録記入、申し送り等にて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の入院、通院などその時々ニーズに出来る限りの対応をしている。地元診療所への通院はご家族の希望により施設が対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分ではない。散髪を地元の理容所の訪問により行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は協力機関である地元の診療所が掛かり付け医となっている。掛かり付け医が遠方の利用者の受診は家族と相談、協力しながら対応している。	協力医は村内の診療所であり、ホームで通院等対応している。入院時や、かかりつけ医が遠方にある利用者は、家族に付き添って頂いている。ホームで対応する時は、距離に応じた費用は頂いている。いずれの場合でも、普段の様子や変化を主治医に伝えるようにしている。往診対応は、なされていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置は無く訪問看護との契約もない。1日2回のバイタルチェックを通し異常の早期発見に努めて掛かり付け医への早めの受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入院先を訪問するようにし状態を確認したり病院関係者から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いは出来ていない。それぞれの家族の考えが異なるのでその人に合った方針を検討中である。	現状では緊急性がないため重度化に対する対応がされていない。明確な基準を作り、家族との十分な話し合いをもちながら、職員が日常的に対応できるよう検討している。	方針を早急に話し合い明確な基準を設け勉強会に組み入れるなど、日常的な取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で数人が訓練を行っている。すべての職員が訓練できるよう計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会いでの日中、夜間を想定し、3回の火災訓練は行っているがその他の訓練は出来ていない。地域との協力体制作りもこれからである。	日中・夜間を想定した訓練を年3回実施している。隣接の民家も少なく地域との協力体制はとりにくい。昨年、「心肺蘇生法研修」を行い、今後も年1回は実施したいと考えている。消防署との距離は近くないため、校庭であった部分をヘリポートにする話も出ている。地域との協力体制や、非常時の食料や備品(発電機等)準備は今後の課題となっている。	消防、駐在所、地域の各組織の協力を構築した組織作りと勉強会を早急に図り安全対策を築いていただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉を選び声掛けを行っているが対応できていないと感じることがある。人格を尊重し利用者に合った言葉掛けに努めている。目線を同じ高さにして語りかけるよう努めている。	開設2年半程の新しいグループホームで、全体的にケア経験年数も少ないところもあるが、職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調が、自然で温かみのある声掛け対応していることが感じられた。利用者の誇りや、自信を与えることから、時には「褒めること」や、「教わること」を通して個々を尊重していることもあり、和やかな雰囲気である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で希望や思いを知るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いしたりせず時間をおいて対応している。出来る限り希望に沿うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段は動きやすい恰好になっているが、受診や外出時には身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や準備片付け等は一緒にいき会話を持つことを大切にしている。何を食べたいか聞いたり季節の物を取り入れている。	利用者の食べたい物の希望を聞いて料理しているせいか、全員食事を残すことなく食べていた。近くにスーパーが無いことで、週に2回ほど食品の配達がなされ、希望を聞いて献立・調理を行っている。2ユニットで、別々のメニューとし食事をしている。食事の時間は、テレビを消し、会話を楽しみながら食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日記録している。栄養バランスを考え各利用者に応じて量や塩分などに配慮しながら提供している。水分は起床時やレク後にも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし口腔ケアが実施出来ている。入れ歯洗浄剤は毎日使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表により一人ひとりの感覚を把握し必要に応じた声掛けやトイレでの解除を行っている。	排泄チェック表により職員は確認し、利用者皆、トイレでの排泄を行っている。夜間は自力でトイレに行く方が多い。建物構造上、職員が気付にくい面があるが、戸口に鈴をつけ活用している。失敗してしまった場合でも、本人が傷つかないように配慮し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く出したり水分摂取量に配慮している。センナ茶も利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきに午前中の中の入浴であるが希望により午後入浴、連日での入浴も可能である。	西ユニットは午後に血圧が高くなる利用者があるため午前入浴としている。東ユニットは午後入浴である。長く入浴していない利用者についても、足浴だけ、洗髪だけ行うなどの対応をし清潔保持を行っている。基本的には2日に1度の入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は本人のペースに任せている。ソファーやイスで傾眠されている方にはベットへの休息を促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルにまとめてユニット内でいつでも確認できるようにしている。水と薬を渡し服用までを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみなどお手伝いが好きな方、レクを喜ばれる方などがおり、個々に合った楽しみ方で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日でも散歩を楽しみたい利用者がおり天気の良い日には付添いをしている。初詣や近隣へのドライブを行っている。	西ユニットは殆ど毎日全員で散歩に出かけ、車いすの方も一緒に1キロ程度の散歩を楽しんでいる。東ユニットは天気を見て時々散歩をしている。時には北山崎・野田村・久慈へドライブに行っている。職員の用事に同乗して、買い物をする方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使う機会は少ないが、ほとんどの利用者が少額を所持している。大きい金額についてはお預かりすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話が出来るよう支援している。家族との手紙のやり取りが始められそうな方がいるので支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に季節感のある飾りつけを行っている。季節の花も飾っている。	元学校の1階を改装した2ユニットホームで天井が高く、廊下・居間も広く、全体的に懐かしい小学校時代を思い出させられる。職員が持ってきた花や、利用者が摘んできた花や折り紙で作った紫陽花も壁面に飾られている。また、利用者同士のトラブルには注意しているためか、物静かにゆったりとくつろいでいる。飾られている写真や絵などが楽しそうな雰囲気を誘う。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの方が1日ホールで過ごしている。自然と気の合う物同士座る場所が決まり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物は持ち込まれていない。ベットやクローゼットは希望により移動することがある。	学校の教室を改装した居室で、ベットとクローゼットが備えられ、個室としてはかなりの広さである。震災にあった方々が多く、全般に持ち込みが少なく、すっきりとした感じを受ける。利用者は、明るい表情で居心地が良さそうに見受けられ、安心感がある。部屋の入り口には千支の絵や写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には名前と千支の絵を貼りわかりやすくしている。ホワイトボードを利用しその日の予定、献立を表示している。		